

盲導犬の役割知って

中央区で 視覚障害理解深める セミナー

地域の子どもに盲導犬や視覚障害について理解を深めてもらう「盲導犬セミナー」がこのほど、浜松市中央区の万斛(まんごく)庄屋公園で開かれた。

富士宮市の日本盲導犬総合センター「富士ハーネス」の山本ありささん(31)が、ゴールデンレトリバーの「ハナビ」号と会場内を移動しながら、利用者が障害物に接触しないように誘導することを紹介した。

山本さんは「犬は色の識別ができない。視覚障害者は信号を横断する際、車の走行音で判断している」と説明し、「盲導犬や白杖(はくじょう)を利用している人が信号で困っていたら、勇気を出して声をかけて」

と呼びかけた。

家族で参加した嶋津花菜さん(10)は「盲



ハナビ号と会場内を移動する山本さん
＝浜松市中央区の万斛庄屋公園

導犬には危険を知らせる特別な役割があることが分かった」と話した。
電気通信設備の松川電気(同区)が社会貢献事業として企画した。日本盲導犬協会への寄付金100万円の贈呈式も行った。

記事を読んで、問いに答えましょう。

- ①見出しの「盲導犬」は何と読みますか。 (**もうどうけん**)
- ②記事の「盲導犬セミナー」はどんな目的で開かれましたか。

(例) 地域の子どもに盲導犬や視覚障害について理解を深めてもらうため。

- ③写真の盲導犬はどんな種類の犬ですか。 (**ゴールデンレトリバー**)
- ④盲導犬は色を識別できません。信号を横断する時はどうやって判断していますか。

(例) 車の走行音で判断する。

- ⑤盲導犬や白杖を利用している人に対して、あなたができることを考え、30字以内で書きましょう(句読点を含みます)。

(例)

- ・信号を渡れないで困っている場合には、声をかけて一緒に渡る。(29字)
- ・周囲を気にして立ち止まっている姿を見かけたら、声をかける。(29字)
- ・視覚障害を持つ人の話を聞き、どんな時に助けが必要か理解する。(30字) など

年 組 名前